

関係団体の主な循環器病対策の取組状況

1 予防や正しい知識の普及啓発

【各団体等の主な取組】

(1) 1次予防に関する取組

○岩手県予防医学協会

【学校】

(人)

	検査項目	令和元年度	平成 30 年度
心臓検診	心電図	32,937	33,166
生活習慣病 検診	肥満度・HbA1c・総コレステロール HDL-C・LDL-C・AST・ALT・TG	8,716	8,835

【成人】

(人)

		令和元年度		平成 30 年度	
		心電図検査	総受診数	心電図検査	総受診数
地域 住民 健診	特定健康診査	53,344	66,482	49,123	67,272
	後期高齢者健康診査	15,778	30,770	15,085	29,229
職域 健診	一般健康診断	104,357	124,044	104,414	125,988
	協会けんぽ	62,081	62,098	57,061	57,075
	生活習慣病健診	45,623	46,009	45,640	46,089
人間ドック		24,392		24,096	

※ 職域健診では、健診時の血圧測定値が収縮期血圧 180mmHg 以上または拡張期血圧 110mmHg 以上の場合「高血圧指導箋」を発行し医療機関への受診をお勧めしている。

(発行数 令和元年度 1,347 枚 平成 30 年度 1,344 枚)

【健康指導など】

		令和元年度	平成 30 年度
健康 支援	特定保健指導	38 団体 動機付け支援 1,095 人 積極的支援 1,141 人	29 団体 動機付け支援 1,047 人 積極的支援 1,070 人
	健診事後指導（栄養・保健）	団体：56 団体（173 回） 個人：3,253 人	団体：81 団体（175 回） 個人：3,464 人
	健康相談等	団体：6 団体（101 回）	団体：6 団体（101 回）
	講演会講師派遣	65 団体 128 回 メタボ予防の運動、 検診結果の見方 など	58 団体 528 回 メタボ予防の運動、 検診結果の見方 など
健康講座・健康教室等		28 回 参加人数 463 人 ・併設レストランを活用した食育啓発 ・健康定食や健康講話付きの施設見学 など	17 回 参加人数 104 人 ・高血圧にならないための食習慣 ・ランチで学ぶ栄養学 など

【講演・講習会など】

- ・講演『若年者の生活習慣病予防』（平成30年11月20日）
講師：岩手健康保険医療大学 青柳美樹氏
対象：市町村健康推進担当者等（参加者数：44人）
- ・講演「生活習慣病予防の取り組みについて」（平成31年2月21日）
講師：健康増進コンサルティング株式会社 長島寿恵氏
対象：市町村健康推進担当者等（参加者数：54人）
- ・講演「生活習慣病と眼の疾患」（平成31年2月15日）
講師：森眼科クリニック院長 森敏郎氏
対象：生活習慣病検診従事者 参加者数：48人

○岩手県看護協会

◆「看護の日健康フェア」

- ・令和元年度（5月）：血管年齢測定、体脂肪測定、健康相談、栄養相談、介護相談等（参加）アイーナ会場に312人
他9支部（花巻・北上・奥州・一関・大船渡・釜石・宮古・久慈・二戸）で事業実施
- ・令和2年度は、新型コロナウイルスのため集合型の催事は中止
「看護の心」普及事業として実施
(1) 特別座談会「地域で健康に暮らすために」新聞情報誌掲載して県内に配布（12月3日）
(2) ラジオ番組「県民に役立つ健康ミニ情報」を発信（11～1月）
（認定看護師・保健師による講話6回）：糖尿病、脳卒中、誤嚥予防等

◆「まちの保健室（健康相談）」事業

（内容）盛岡市内4か所での看護職による血圧測定・健康相談（1～2回／月）

- ・平成30年度：利用者1,124人
- ・令和元年度：利用者690人（3月：新型コロナウイルスのため中止）
- ・令和2年度：新型コロナウイルスのため中止

◆「健康教育活動（地域住民の健康講座）」

（内容）市民向けの健康講座を開催（1回／年）

- ・平成30年度：（9月）歯科衛生士による口腔ケア
- ・令和元年度：（11月）転倒予防士による寝たきりにならないための転倒防止
- ・令和2年度：新型コロナウイルスのため中止

◆社会経済福祉委員会による禁煙への啓発

- ・令和元・2年度：看護協会研修参加者へのリーフレットによる啓発

○日本健康運動指導士会岩手県支部

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、不要不急の外出自粛等、日常生活への制限が始まった時期に合わせ、身体活動量の低下を予防するために自宅でできる健康体操を紹介。

- ・令和2年4月3日（金）放送 NHK盛岡放送局（総合）「おぼんですいわて」内「おうちでできる！健康体操」

指導者：岩手県支部 藤野恵美副支部長（健康運動指導士）

○岩手県栄養士会

- ・「みんなでいっしょに健康になろう！事業」の実施

東日本大震災津波被災者及び地域住民の中に、買い物困難や不眠を要因とする低栄養の方や、高血圧、脳卒中、糖尿病等の重症化が散見されることから、地域コミュニティを活用し、これらの予防のための栄養士による健康・食生活のアプローチの実施（H29.4～R2.3）

【R1 年度実績】

沿岸生活者健康応援スクール（5 地区 23 回 529 名） 訪問支援参加者（15 日 226 名）

内陸移住生活者健康応援スクール（3 地区 9 回 147 名）

健康栄養相談（12 回 130 名） ※シンポジウムはコロナ対策のため中止

- ・ 「超高齢社会をみすえた糖尿病予防事業」の実施

糖尿病の原因を明らかにし、予防に向けた栄養管理、血圧のコントロールも含め、一般県民を対象にした研修会の開催

中央研修会 栄養講話、運動と試食体験（1 回 92 名）

健康出前講座 栄養講話 試食体験（県内 11 会場 407 名）

- ・ 「栄養ケア・ステーション」

市町村等が主催する脳卒中予防、フレイル予防、高齢期の食事ケア、糖尿病予防等の栄養指導、栄養相談及び調理実習指導（8 事業 59 回 2,763 名）

○花巻市

- ・ 食育講座において、生活習慣病予防を目的とした講座を実施（高血圧、糖尿病予防）

H30：31 回（793 名） R1：12 回（274 名） R2：4 回（106 名）

- ・ 食生活改善推進員による「減塩ステップアップ事業」

（減塩モニターを活用した 1 日の食塩摂取調査）

H30：27 名 R1：167 名 ※R2 は中止

- ・ 食生活改善推進員による講習会での味噌汁の塩分測定

H30：1,182 名 R1：944 名 R2：13 名

- ・ 高齢者が主体的に活動する「通いの場」における血管の健康に関する健康講座

R2（～12 月末）：28 回（342 名）

○全国健康保険協会岩手支部

- ・ 令和元年 10 月 2 日 健康づくりセミナーの開催（アイーナ 101 事業所 121 名参加）

「禁煙者対策を成功させる方法」と題して、喫煙対策、事業所における健康経営等について、DeNA CHO 室 平井室長代理より講演いただいた。 ※令和 2 年度の開催なし

- ・ 健康経営宣言登録事業所等を対象に出前講座を実施

生活習慣病予防、健診結果の見方等をテーマとし、協会の保健師等を講師として事業所等で開催（令和元年度：30 回 計 1,736 人） ※令和 2 年度はコロナにより中止

○矢巾町

- ・ 保健推進員と保健師による健康教育・健康相談会

血圧測定・地区の課題やテーマに応じた健康教育・軽運動等

〔 H30：86 回（のべ 3,020 名） R 元：84 回（のべ 3,089 名）

R2：コロナ禍により未実施 （保健師不在の保健推進員の単独開催も含む） 〕

- ・食生活改善推進員と栄養士による栄養講習会（地区公民館を巡回して実施）

減塩(ナト・カリ調味料)を使用し、季節のテーマや地産地消を取り入れた調理実習と試食・栄養士による講話等

〔 H30：49回（のべ1,905名） R元：45回（のべ1,655名）
R2：コロナ禍により未実施（栄養士不在の食生活改善推進員の単独開催も含む） 〕

- ・やはば健康チャレンジ事業

町民が歩数計機能のある活動量計を持つことで、日常生活のなかに気軽に運動を取り入れ、楽しみながら健康づくりに取り組む事業。

体組成の測定・血圧測定・BMIの改善及び維持・目標歩数の達成・健診を含む健康関連行事への参加に応じポイントを付与。ポイント数に応じて景品をプレゼントし、健康づくりや運動の持続を促す。

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
参加者	52名	226名	369名	613名

「ウェルベース矢巾」のオープンに伴い、R2.3以降は働き盛りの参加者が増え、若い世代から健康づくりに無意識に取り組むことにつながっている。

○岩手県医師会

一般市民を対象とした2019年度第1回「いわて健康塾」（主催：岩手県医師会・岩手読売会・テレビ岩手・読売新聞盛岡支局）の実施

日時：令和元年5月12日（日） 午後2時～午後3時30分

場所：アートホテル盛岡「末広の間」

講師：伊藤 智範（現：岩手県医師会常任理事

岩手医科大学医学教育学講座 地域医療医学分野教授）

演題：「その痛み、心筋梗塞の危険信号かも！

～いのちを救う予防と治療、専門家が教えます～」

参加者：約140名

○岩手県薬剤師会

- ・県民健康講座「みんなの薬の学校」の実施

県民に対し、薬の正しい知識を啓発することにより、県民の健康の増進を図ることを目的とし、申込のあった団体等に会員を派遣して実施している。

【実績】（岩手県委託事業：昭和59年度～）

令和元年度：講座数100回、受講者数2,702名

令和2年度：講座数28回、受講者数520名（令和2年12月31日時点）

- ・禁煙サポート事業への協力

①盛岡薬剤師会：盛岡市保健所と共催で禁煙チャレンジを開催。

②奥州薬剤師会：奥州市の「薬局と連携した禁煙教育」への参加・協力。

○岩手産業保健総合支援センター

- ・職場における健康管理、生活習慣病予防等についての研修会開催

対象：産業医、事業主、人事労務担当者、衛生管理者等

開催回数 平成30年度：10回（センター主催：5回 事業場・各種団体との共催：5回）

令和元年度：17回（センター主催：5回 事業場・各種団体との共催：12回）

令和2年度：13回（センター主催：2回 事業場・各種団体との共催：11回）

※R2 主催分はコロナで1回キャンセル

(2) 2次予防に関する取組

○岩手県予防医学協会

- ・労災健康保険二次健康診断（令和元年度：383人 平成30年度：402人）

労働基準法で定める定期健康診断等の結果により、脳・心疾患を発症する危険性が高いと判断された方を対象に、無料で二次健康診断と保健指導を受けることができる労災保険制度。

定期健診結果とともに、対象者のいる事業所へ案内を同封し、受診勧奨に努めている。

- ・精密検査外来（循環器科）（令和元年度：757人 平成30年度：826人）

当協会の健康診断や人間ドックで精密検査が必要と判定された方を対象とし、保険適用で一回の受診で診察・検査・説明までを完了させる取組。治療が必要な方をより早く、より正確にトリージングして専門医療機関へ紹介。

○花巻市

- ・特定健康診査受診率向上に向けた受診勧奨の取組

特定健康診査受診率 H30：50.2% R1：53.5%

- ・特定健康診査における心電図検査の全員実施
- ・特定健康診査時、血圧高値の方に対しリーフレットを配布

H30：109名 R1：133名 R2：175名

- ・特定保健指導の実施率向上に向けた手渡しによる結果通知書の配布

特定保健指導実施率 H30：41.0% R1：47.7%

○全国健康保険協会岩手支部

- ・検診等受診率向上のため、新規健診機関との契約、健診対象者（事業所等）への受診勧奨文書送付等の取組を随時実施

（健診受診率：平成30年度 52.0%⇒令和元年度 53.7%）

- ・重症化予防事業の実施

健診時収縮期血圧180以上・拡張期血圧110以上の重症未治療者に対し、文書送付、電話等で受診勧奨を実施（令和元年度 文書送付：423件 電話104件）

○矢巾町

- ・特定健診の実施

年度	受診者	受診率	備考
平成30年度	1,936名	52.0%	法定報告値
令和元年度	2,002名	54.3%	法定報告値
令和2年度	1,882名	45.0%	未集計あり・実績値

* 法定報告値の対象となるのは、1年を通じて国保加入していた方が対象となるため実績値と異なるもの。

- ・特定保健指導の実施

年度	利用者	利用率	備考
平成 30 年度	100 名	40.1%	法定報告値
令和元年度	91 名	40.4%	法定報告値
令和 2 年度	実施途中	コロナ禍により規模縮小	

(3) 普及啓発に関する取組

○岩手県予防医学協会

- ・「健康いわて」の発行（隔月 3,000 部）関係各所や事業所等に配布
健診や検査等の紹介、疾患の説明、健康講座などの案内、各団体の健康管理への取組などを発信。また、ホームページでも健診や健康に関する様々な情報を発信。

○岩手県栄養士会

- ・「いわて栄養月間」（県内各地で 18 回開催 一般県民 1,462 名参加）
一般県民を対象に、栄養クイズや塩分チェックを通じて、日々の食事を評価していただき、減塩指導に結びつけている。また、多様な病態栄養、食物アレルギー等の相談にも対応。
「いわて栄養月間」は平成 11 年から継続実施しており、これまでの参加者は 125,000 人を超えているもの。
- ・「健康づくり提唱のつどい in 盛岡」（1 回 一般県民 97 名参加）
脳卒中予防を中心とした生活習慣病予防の講演と栄養ワンダー(普及啓発)

○岩手県国民健康保険団体連合会

- ・循環器病を課題としている保険者（市町村及び後期高齢者医療広域連合）のデータヘルス計画に対して、有識者からの助言による支援
(H30：11 保険者 R1：16 保険者 R2：16 保険者)
- ・血管年齢を測定する保健活動用機材の市町村貸出による保健活動支援及び脳卒中県民会議等での健康チェック
(R1：延べ 70 回)
- ・市町村が被保険者を対象として配布する各種パンフレットの共同購入支援
(R2 年度新規事業：特定健診・特定保健指導にかかるパンフレット（発行：社会保険出版社）3 市町村 6,350 部)

○花巻市

- ・スーパー等における高血圧予防普及活動（脳卒中予防キャンペーン）
H30：130 食 R1：200 食 ※R2 は中止
- ・自動血圧計貸出事業（希望する各種団体に自動血圧計を貸出し）
H30：9 団体 R1：5 団体 R2：1 団体
- ・大迫地域における健康づくりフロンティア事業（事業の一部を帝京大学等に委託し、家庭血圧測定、耐糖能検査、脳の MR I・MRA 検査、心電図検査等を実施）
H30：延べ 1,041 人 R1：延べ 1,009 人 ※R2 は中止
- ・血圧の管理をテーマにした講演会の開催
R1：4 回（217 名）

- ・ 市民、企業、団体を対象とした応急手当講習会（消防本部）

H30：206回（5,492名） R1：190回（5,529名） R2（～12月末）：82回（2,242名）

○全国健康保険協会岩手支部

- ・ 健診受診や特定保健指導について、協会けんぽ加入事業所（県内約 19,000 社）に対し、広報チラシを送付（年 3 回程度）
- ・ そのほか、ホームページ、健康保険委員広報誌（県内約 2,000 社に配布）にて同様の広報を複数回実施

○岩手県医師会

STOP-MI キャンペーン啓発資材を配布【部数：735 部】

配布先：病院・診療所（岩手県医師会会員所属）

2 医療提供体制の整備・充実に係る取組

【各団体等の主な取組】

(1) 救急搬送体制整備の取組

※県内 12 消防本部の取組状況について、県消防長会取りまとめ

○盛岡地区広域消防組合消防本部

- ・ 高規格救急自動車更新整備（R1：1 台、R2：2 台）
- ・ アイソレーター装置を付属する高規格救急自動車（R2：1 台整備）
- ・ 高規格救急自動車及び予備救急自動車にオゾンガス発生装置を整備（令和 2 年度中に、未整備であった 17 台に整備し、運用車両計 23 台が整備完了予定）
- ・ 救急救命士養成のため、救急救命研修所に派遣（H30：5 名、R1：5 名、R2：4 名）

○宮古地区広域行政組合消防本部

- ・ 高規格救急自動車更新整備（H30：1 台、R1：1 台、R2：1 台）
- ・ 高規格救急自動車全 11 台にオゾン発生除菌装置を整備（R2）
- ・ 救急救命士養成のため、救急救命研修所に派遣（H30：2 名、R1：2 名、R2：1 名）

○一関市消防本部

- ・ 高規格救急自動車更新整備（R1：1 台、R2：1 台）
- ・ 令和 2 年度中に運用中の高規格救急自動車及び予備救急自動車にオゾンガス発生装置を整備予定（全 11 台）
- ・ 救急救命士養成のため、救急救命研修所に派遣（R1：1 名、R2：1 名※中止）

○釜石大槌地区行政事務組合消防本部

- ・ 高規格救急自動車（オゾンガス発生装置付）更新整備（R1：1 台、R2：1 台）
- ・ 救急救命士養成のため、救急救命研修所に派遣（R1：1 名、R2：1 名）
- ・ 12 誘導心電図伝送システム（富士の国）の導入（R2：4 台）

○奥州金ヶ崎行政事務組合消防本部

- ・ 高規格救急自動車更新整備（H30：1台、R1：1台、R2：1台）
- ・ 胆江地域MC協議会プロトコール
ACSプロトコール（H27.3運用開始）
脳外適応傷病者の医療機関選定基準（H24.8運用開始）
SAHプロトコール（H17.4運用開始）

○久慈広域連合消防本部

- ・ 運用中の高規格救急自動車及び予備救急自動車に車載用オゾンガス発生装置整備状況
（全8台中7台整備済み／未整備分1台は令和3年度中に整備予定）
- ・ 救急救命士養成のため、救急救命研修所に派遣（H30：2名、R1：1名、R2：1名）
- ・ クラウド型12誘導心電図伝送システム運用中（全救急車両、2医療機関対象）

○花巻市消防本部

- ・ 高規格救急自動車更新整備（H30：1台、R1：1台）
- ・ 令和2年度中に運用中の高規格救急自動車及び予備救急自動車に車載用オゾンガス発生装置を整備予定（全8台中8台（未整備分含む））
- ・ 救急救命士養成のため、救急救命研修所に派遣（H30：3名、R1：1名、R2：0名）
- ・ 指導救命士養成のため、救急救命研修所に派遣（H30：1名）
- ・ 心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液、血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与の実施の資格を有する救急救命士養成のため、救急救命研修所に派遣（R1：1名）

○北上地区消防組合消防本部

- ・ 高規格救急自動車更新及び新規整備（H30：更新1台、R1：更新及び新規各1台）
- ・ 救急自動車全車にオゾンガス生成器を整備（令和2年度、未整備であった救急自動車3台に整備し、運用車両計7台に整備完了。）
- ・ 救急救命士養成のため、研修所等に派遣
新規研修（H30：1名、R1：1名、R2：1名）
業務実地修練（H30：1名）
指導救命士養成研修（R1：2名）

○大船渡地区消防組合消防本部

- ・ 高規格救急自動車更新整備（R1：1台）
- ・ 救急救命士養成のため、救急救命研修所に派遣（H30：1名、R1：1名、R2：1名）
- ・ 12誘導心電図伝送システムを導入（R1：1台 岩手県立大船渡病院間で運用）

○遠野市消防本部

- ・ 高規格救急自動車更新整備（H30：1台、R3：1台予定）
- ・ アイソレーター装置を付属する高規格救急自動車（R3：1台更新整備予定）
- ・ 救急救命士養成のため、救急救命研修所に派遣（H30：1名、R1：1名、R2：1名）

○陸前高田市消防本部

- ・ 12 誘導心電図伝送装置導入（R2：救急車 3 台）
- ・ 救急ボイストラの導入（H30：救急車 3 台）
- ・ 救急救命士養成のため、救急救命研修所に派遣（H30：1 名 R1：1 名 R2：1 名）

○二戸地区広域行政事務組合消防本部

- ・ 救急救命士養成のため、救急救命研修所に派遣（R1：2 名、R2：2 名）
- ・ 12 誘導心電図伝送装置を全救急隊に配備（H27 年から運用）
- ・ オゾンガス発生装置を各署に配備
- ・ 今年度アイソレーションフードを救急車全車に配備予定

(2) 医療提供体制の整備の取組

○岩手県看護協会

◆県内の看護職を対象にした研修（2 年間で抜粋）

【令和元年度】

5 月「患者を観る・診る・看る」

講師（県内病院・集中ケア認定看護師）、受講者・看護師123人

9 月「看護師が支える生活中心のリハビリテーション」

講師（県内介護保険施設作業療法士）、受講者・看護師143人

11 月「心電図の基礎と臨床看護」

講師（碑文屋病院看護師）、受講者・看護師124人

11 月「不整脈のデバイス治療と看護」

講師（碑文屋病院看護師）、受講者・看護師65人

11 月「胎児心拍モニターの判読とその対応」

講師（日本医科大学多摩永山病院院長）、受講者・助産師17人

【令和2年度】

7 月「呼吸器・循環器フィジカルアセスメント」

講師（県内病院・集中ケア認定看護師）、受講者・看護師109人

8 月「ハート先生の心電図セミナー」

講師（心臓看護教育研究会会長・医学博士）、受講者・看護師99人

8 月「ハート先生の心電図セミナー」

講師（心臓看護教育研究会会長・医学博士）、受講者・看護師85人

9 月「脳神経フィジカルアセスメント」

講師（県内病院・集中認定看護師、救急看護認定看護師、受講者・看護師98人

11 月「呼吸器・循環器フィジカルアセスメント」

講師（県内病院救急看護認定看護師）、受講者・准看護師12人

11 月「患者を診る・看る」

講師（県内病院集中ケア認定看護師、救急看護認定看護師）、受講者・新人看護師70人

11 月「急変時のアセスメントと対応」

講師（県内病院救急看護認定看護師）、受講者・看護師 102 人

○岩手県栄養士会

脳卒中、心疾患をはじめとした循環器病の予防、改善において、減塩と栄養バランスに配慮した適切な栄養確保が根幹となることから、医療現場において入院患者の摂食嚥下機能に対応した食事提供基準（「嚥下調整食マネジメント岩手県ガイドライン」）を作成し、多職種協働による栄養ケアマネジメントを提案。

ガイドライン作成に当たっては、岩手県食形態分類標準化推進委員会（委員長：宮田剛県立中央病院長）を構成し、医療・介護関係施設の実情に基づく、本県の嚥下調整食基準を示し、具体的な手法を共有するための研修会を開催し、多くの参加を得た。

- ・岩手県内医療と介護施設の食連携実施のための実態調査（県内 301 施設 回答率 94.1%）
- ・「嚥下調整食マネジメント岩手県ガイドライン」作成（A 4 フルカラー 1,000 部）
- ・岩手県食形態標準化研修会（県内 5 地区 413 名 関係施設の 77.6%が参加）

○岩手県歯科医師会

- ・令和 2 年度岩手県立中部病院医科歯科連携勉強会（令和 2 年 12 月 16 日）

テーマ：「循環器疾患における歯科治療の必要性」

講 師：岩手県歯科医師会口腔保健センター委員会 高橋 綾

参加者：15 名（医師 4 名・看護師 5 名・医療クラーク 2 名・歯科衛生士 2 名・事務 2 名）

(3) 地域社会における患者支援の取組

○岩手県看護協会

- ◆県内 3 医療圏（盛岡、二戸、一関）にて訪問看護ステーション運営（4 か所）
- ◆県内 2 医療圏（盛岡、一関）にて居宅介護支援事業所運営（2 か所）

(4) 循環器病患者の治療と仕事の両立支援に関する取組

○岩手労働局

①両立支援ガイドライン等の周知啓発

- 1) 集団指導、各種会議等（主に事業主を対象）において両立支援リーフレット配布等による周知

（平成 30 年：22 回 令和元年：20 回 令和 2 年：4 回

※令和 2 年はコロナのため会議等が開催されなかった影響）

- 2) 局HPにガイドライン、リーフレット及び相談等の窓口の一覧等を掲載することにより、事業者等に対して周知

②岩手県地域両立支援推進チームの開催（19 機関・団体）

医療機関、関係機関等による連携した両立支援の取組の促進

（平成 30 年 9 月 4 日、令和元年 9 月 6 日開催

※令和 2 年はコロナのため会議を開催せず資料配布のみ）

③地域における両立支援の機運の醸成（セミナーの開催）

- ・令和元年 12 月 16 日 岩手教育会館 13:30～ 参加数 71 名

基調講演：村本高史氏（サッポロビール）「治療と仕事の両立支援に向けて」

事例発表：(株)小田島組、(株)北日本朝日航洋、岩手医科大学附属病院医療福祉相談室、岩手産業保健総合支援センター

- ・令和 2 年 12 月 16 日 北海道・東北エリア オンライン地域セミナー13:30～

(Web 形式 コロナのため)

第一部 パネルディスカッション：「治療と仕事の両立に向けた職場づくり」

パネリスト：(株)青森銀行 柴崎賢治氏

(株)オンワード・マエノ 内田直子氏

(公財) 平野正吉美術財団 篠崎由紀子氏

コーディネーター：キャンサー・ソリューションズ(株) 桜井なおみ氏

第二部 オンライングループワーク

○岩手産業保健総合支援センター

- ・職場における治療と仕事の両立支援についての研修会開催

対象：産業医、人事労務担当者、産業看護職、衛生管理者等

開催回数 平成 30 年度：7 回（センター主催：4 回 事業場・各種団体との共催：3 回）

令和元年度：8 回（センター主催：4 回 事業場・各種団体との共催：4 回）

令和 2 年度：4 回（センター主催：3 回 事業場・各種団体との共催：1 回）

- ・個別事例に関する相談（事業所や本人からの個別に関する延べ相談件数）

相談件数 平成 30 年度：70 件（うち脳卒中 6 件）

令和元年度：126 件（うち脳卒中 7 件、心疾患 19 件）

令和 2 年度：47 件（R2. 9. 30 時点）

(5) 小児や若年者の循環器病に関する取組

○岩手県栄養士会

- ・「乳幼児の栄養食生活に関する相談」（適正な食習慣指導 11 回 相談者 28 名）

- ・「岩手県食育普及啓発キャラバン」

“しょっぱいものは食べない”などの「大型食育絵本の読み聞かせ」

（県内保育所 1 か所 保育園児等 23 名） ※他に予定したものはコロナ対策のため中止

○矢巾町

- ・児童生徒の生活習慣病予防健診の実施

小学 4 年・中学 1 年の希望者を対象に血液検査を実施

	平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度	
	受診者数	受診率	受診者数	受診率	受診者数	受診率
小学 4 年	185 人	(76. 8%)	175 人	(74. 2%)	191 人	(82. 0%)
中学 1 年	207 人	(86. 3%)	193 人	(79. 1%)	197 人	(79. 1%)
合計	392 人	(81. 5%)	368 人	(76. 7%)	388 人	(80. 5%)

- ・児童生徒の生活習慣病予防健診の有所見者数（B1～C）

	平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度	
	有所見者数	有所見率	有所見者数	有所見率	有所見者数	有所見率
小学 4 年	37 人	(20. 0%)	40 人	(22. 9%)	33 人	(17. 3%)
中学 1 年	42 人	(20. 3%)	34 人	(17. 6%)	41 人	(20. 8%)
合計	79 人	(20. 2%)	74 人	(20. 1%)	74 人	(19. 1%)

- ・若年者健診（35 才からの特定健診の実施）

年度	受診者	受診率	対象者
平成 30 年度	46 名	20.8%	221 名
令和元年度	48 名	20.0%	240 名
令和 2 年度	29 名	15.5%	187 名

＊国保加入の 35～39 才の方が対象

3 その他の取組

【各団体等の主な取組】

○岩手県医師会

2017 年岩手県地域心疾患登録事業報告書の発行【部数：860 部】

2017 年岩手県地域脳卒中登録事業報告書の発行【部数：860 部】

配布先：病院・診療所（岩手県医師会会員所属）、岩手県庁、保健所等

○岩手県歯科医師会

生活習慣病に口腔衛生管理、口腔機能管理が予防、罹患しても予後に好影響を与えることが示されつつある。特に 感染性心内膜炎など歯科疾患と循環器病との関連もあり、歯科的アプローチの実践と周知に力を入れていく。